

曾屋高校と福祉施設が交流

文化祭に平塚の「進和学園」を招き植樹

2010年9月11日号

タウンニュース

神奈川県全域・東京都町田市の地域情報紙



暑い陽射しの中、協力し合って植樹した

秦野曾屋高校(田村幸久校長)が推進する「ボランティア・福祉教育」の一環として、9月4日に開催された文化祭「秋輝祭」に平塚市の社会福祉法人進和学園(出縄雅之理事長)の職員や利用者を招き、同高校内で植樹を行った。同学園が同高校に植樹をするのは今年5月に続いて2回目。

進和学園は、横浜国立大学名誉教授で植物生態学者の宮脇昭氏が提唱する「土地本来の木による本物の森づくり」を目指し、どんぐりの実から植樹用の苗を栽培するプロジェクト「いのちの森づくり」を行っている。栽培は同学園内の「どんぐりグループ」が担当。県の教育委員会が、同学園に福祉教育を推進する秦野曾屋高校を紹介したことで今年5月の植樹が実現、両校の交流が始まった。

この日は進和学園から職員と利用者17人が参加。秦野曾屋高校からは職員と生徒など約40人が集まった。どんぐりグループが苗まで育てたスタジイやタブ、サツキなどを、炎天下の気候のもと生徒は協力しあい、高校敷地内の「藤の広場」の花壇に合計148本の木を植えた。

植樹の後、両校は文化祭の模擬店で食事を購入し、一緒に昼食をとるなど交流を深めた。また、校舎内では同学園の活動をパネルで展示。パンやクッキーなどの手作り製品を販売した。

植樹に参加した秦野曾屋高校の生徒は「暑いけど楽しかった。元気に大きく成長してほしい」と感想を述べた。進和学園の職員遠山雄志さんは「これからも秦野曾屋高校と協力し、交流を続けていきたい」と振り返った。田村校長は「進和学園とは、植樹に限らず様々な形の交流をしていこうと考えている。積極的に交流し、生徒の福祉の心を育てたい」と話した。